

個別支援学級（わかば級・のぞみ級） 生活単元学習指導案

1. 単元名 「わくフェスで個学のお店をひらこう」（生活単元25時間）

2. 単元目標

- ・身近にあるものを使って、様々なものづくりを楽しむことができる。
- ・個学の店で売るものを作ったり、売るための活動に参加したりすることができる。
- ・店で売る活動を通して、お客さんとのコミュニケーションのとり方を考えることができる。

3. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの思いや願いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

個別支援学級ブロックテーマ

「感じる心・気持ちを伝える自分」

4. 児童の実態

【個別支援学級（個学）の子どもたち】

個別支援学級は、合計38名の児童が在籍する。学年や生活経験、発達の段階が大きく異なるため、普段は個別の学習が中心となっているが、同じ場でできるだけ共に学ぶ交流学習を積極的に行い、日頃から交流学級の学習に参加している児童も多い。一人ひとり個別の時間割を組んで、個学での個別の学習や交流の学習を行っている。

今年度は、4月から週に1、2回程度、体育で個学全体の合同学習を行っている。運動会の前には、それぞれの種目に分かれて練習を行った。また、それ以外の時期には、サーキット運動やマット運動、水遊び、ボール運動などを行ってきた。どの活動においても、児童が自分にできる身体の動かし方や自分に合った活動の場を選択できるよう、学習環境を設定してきた。それにより、児童は各々に自分ができることとできないことを前向きに受け入れながら体を動かすことができている。また、自分や友だちのできることを認め、できないことは応援したり励ましたりする態度が身に付きつつある。

個学の畑で育てた野菜を使った調理実習では、上級生の児童が食材を切るなど下ごしらえをして、下級生のために快く働くなど、上級生としての自覚が育っている。一方で、下級生が自分のペースで活動しているのを見て、「早くしろ。」などと自分本位な言葉を掛けてしまう児童もいる。そのような児童には、よいところに目を向けるよう声を掛け、温かく見守る姿勢を育てているところである。

平塚総合公園での校外学習では、個学の児童が各々に好きな遊具で遊んだり、動物と触れ合ったりする中でクラスや学年に関係なく、近くにいる友だちと自然に会話が生まれた。それをきっかけに、休み時間に、別の個学の教室へ遊びに行く児童も増えてきた。

5. 単元と指導

【単元について】

本単元は、単元構想にあるように第一次「生き物や植物の成長に触れ、育てる喜びを感じよう」・第二次「ものづくりの楽しさを味わおう」、第三次「ものづくりの経験をいかして、お店の準備をしよう」の3部構成になっている。しかし、内容が多岐にわたるので、本指導案では主に第三次のお店の準備に焦点をあてることにする。

子どもたち自ら店を開く体験を通して、生活をする中で必要になる自立的な生活をするための基礎能力とともに、人との関わり方を身につけることを学習のねらいとしている。自立的な生活をするための基礎能力とは、買い物の手順を知り、目的に合う買い物ができるようにすること、買い物をしたら代金を支払うことについて自分で考えて行動することである。ここでの「人との関わり方」とは、買い物に必要な言葉を話すことを指す。

本時は、客役と店員役をローテーションでしながら演じてみる活動を行う。客役では、商品を選択し、金額を聞き、合計金額の支払いをし、おつりと商品を受け取る。店員役では、「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」などの言葉だけでなく、笑顔で接客すること、相手意識を持って、伝わる声の大きさと話すことを指導していく。またお客さんが気持ちよく買い物ができるような礼儀、仕事のマナーについての関心も促すことも期待できる。

【指導について】

本年度、個学は合計38名の全7クラスになり、1年生から6年生まで実態も様々な子どもたちなので、この単元での取り組みは、個々の段階によって違った内容になると予想される。そこで、経験が多い子どもたちや教師のサポート無しで行える子どもたちは、自分たちで調べたり、サポートが必要な子たちに自分が身に着けた技能を伝えたりする活動が展開されるように指導したい。例えば、児童が販売のコツを考えたり下級生のサポートをしたりする。販売を通じてコミュニケーションを楽しんだりしながら、作品ではなく商品であることや、販売をするということについての知識をつけていきたい。自力での製作が難しい児童へは、自分が作りたいものを選んだり、サポートを受けながら作ったりする活動を通じてものづくりやみんなで一緒に活動するということを経験する機会をつくる。

また、児童の実態により、言葉だけでは理解が難しい子もいるので、イラスト入りのカードやクラスごとのお店屋さん体験によって楽しく関われるように指導していく。

これまでの学習で、自分たちが持ち帰るために石鹸やアイロンビーズを作ったり、図工などで作品として工作をしたりしている経験がある。今回は、売るための商品をみんなで作り、みんなで販売をするということをねらいにしている。その中で自分たちが作れるものの確認やお客さんに買ってもらうための工夫をしたり、販売をするときに必要なことなどをシミュレーションしたりしながら学んでいかれるようにする。さらに、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」などの販売時に使う言葉が自然と言えるように指導していく。

更に、幅広い実態の中で、一人一人の役割を考えながら、個々の実態に応じてどこまで支援して活動できるかをしっかりと考え、指導者と支援者で連携をとって支援していきたい。

自分が作ったものを商品として売ることを意識して制作活動ができることをねらうため、販売用に同じ規格のものを大量生産したり、販売のためのお店屋さんの練習をしたりしていく。それにより、後半の活動では、お客さんを意識しながら作ったり、丁寧に効率よく作るための工夫をしたりしていくことを期待している。困っている友だちに言葉をかけたり、商品を見比べたり、販売体験を通じて関わり合ったりする姿を期待して、よりよいお店にする為にアイデアを出し合い協力しようとする姿を個学の児童のひびき合いの姿としたい。

5 単元構想

個学 生活単元学習 単元名「わくフェスで個学のお店をひらこう」

第一次 生き物や植物の成長に触れ、育てる喜びを感じよう

4月：学校参観で保護者に石鹸を売る（108個完売する）／飼うために必要なものは何か？

- ・ビタミンの多い小松菜を食べるらしいよ。育てようよ
- ・でもモルモット触ったことがない…触りに行きたいな。・もっとモルモットのことを知りたいな。

5月：動物愛護センターの方に来ていただくお願いの電話をしよう／バスボムづくりと出合い

【6年生】意見文を書こう（国語）

- ・モルモットの里親になることのメリットやデメリットを書きたいな。
- ・必要なものをまとめたらかなりお金がかかるね 切だね。
- ・僕たちが卒業したあとのことも考えなきゃいけないね。
- ・動物のふれあい方がホームページにのっていたよ。やさしく後ろから抱っこすることが大切だね。
- ・餌を持って行って動物にあげてもいいんだって！たくさんあげたいな。
- ・みんなで育てた小松菜、食べてくれるかな？

動物愛護センターの方に命やお世話の大切さを学ぼう（6月27日）

- ・命の大切さがわかったよ。大切にお世話をしよう。
- ・里親になるって責任のあることなんだね。
- ・飼うために必要なものや石鹸の材料を購入するにはまだお金が足りないよ…。
- ・石鹸の材料を買うために個学の先生方に石鹸を売りに行こうよ
- ・募金をお願いすることもできるよ。
- ・個学の支援員さんや先生は4月に石鹸を買えなかったって言ってたよ！



平塚総合公園へ遠足に行こう！（7月6日）

【ふれあい動物園】

- ・モルモットがいるよ！とっても小さくてかわいいね！
- ・ひよこもうさぎも温かくて気持ちいいね。フワフワしているね。
- ・餌をあげてみたら食べてくれたよ。うれしいな。
- ・みんなで育てた小松菜、たくさん食べてくれたよ！やったあ！

【わんぱく広場】【平塚のはらっぱ】

- ・芝生がきれいで気持ちいいね・アスレチックもたくさんあるよ！
- ・鬼ごっこやドッチボールのしーね・滑り台のしーね！

個学の先生に意見文をもって石鹸を売りに行こう

- ・1万5千円たまったね！これで最低限必要なものを買おう
- ・これで3か月分のえさやペットシートは足りそうだね
- ・でも、わくフェスでも石鹸やバスボムを売らないと、その先のえさやペットシートが足りなくなってしまうよ。
- ・募金をお願いをしてみる？・わくフェスでも販売しよう！
- ・わくフェスで販売するならもっと石鹸やバスボムをよくしなきゃいけないね
- ・石鹸づくりのプロになりたいな。

のぞみ4組に匹をおむかえしたよ（7月18日）

- ・3匹ともとってもかわいいね！・びくびくしているよ。緊張しているのかな？
- ・おもったよりもおしっこやうんちをたくさんしているね。
- ・お世話は大変だけど、夏休み中どうする？・みんなで当番制にしてお世話をしよう！
- ・体重を図ったら、少しずつ増えて、とても大きくなってうれいしいな。
- ・心臓の音を聞いてみたい。・メッシ君は人参やえさをよく食べるね
- ・後ろから優しく触ると「モキュモキュ」とうれしそに鳴くよ
- ・なぎさちゃんが隠れる段ボール、すぐに壊れちゃうね。困ったな。

モルモットの鳴き声や様子に着目し、モルモットの気持ちを考えられるように声をかける。

【わかば1・2組】

- ・メダカが卵から生まれたよ！
- ・モンシロチョウで卵からこんなに大きくなるんだね！
- ・カメさんもとってもかわいいね！
- ・のぞみでカエルを育てていたよ。飼ってみたい。
- ・ほかの生き物にも触ってみたい

【のぞみ1・2・3組】

- ・オタマジャクシに足が生えてきたよ！餌をあげたいな。
- ・アゲハ蝶の幼虫がロッカーでさなぎになっているよ！移動したのかな？
- ・メダカの赤ちゃん、どこにいるのかな？
- ・少しずつ大きくなってきているよ
- ・アゲハ蝶のさなぎがかえっているよ！
- ・カブトムシをつかめるようになったよ！
- ・かたつむりを見つけたよ！梅雨だね…

生き物や季節の野菜を育てる活動を通して、子どもたちが小さな命を身近に感じられるような環境づくりを行う。

個学の畑で野菜を育てよう

- わかば：ポップコーン用とうもろこし
- のぞみ：ピーマン・きゅうり・ミニトマト・小松菜・オクラ・枝豆
- ・ぐんぐん大きくなっていくね！もうぼくより背が高いね！
- ・たくさんとれたね！とれた野菜で何か作ろうよ



【のぞみ】とれた野菜でパーティーをしよう

- ・餃子の皮でピザをつくらう！
- ・たくさん野菜がのっていておいしいね！もっと食べたいな！
- ・またピザづくりをしたいな。
- ・またパーティーをひらきたいな



もふもふ気持ちいいね。
名前はなんというの？
黒い子は毛が長いね。他の2匹は短いね。
なでるときゅもきゅ鳴くよ。なんて意味かな？



はじめてだったよ。
メスのなぎさちゃん、かわいいな。
また休み時間にも会いに行きたいな。
ニンジンが好きなんだね。



第一段階
教師と一緒に植物の世話や動物に触れ合うことをしようとしている。

第二段階
友だちと一緒に植物の世話や動物に触れ合うことができる。

第三段階
自分から植物の世話や動物に触れ合い、思ったことを伝えることができる。

モルモットのためにやりたいことを話し合おう。(のぞみ4組)

- ・心臓の音をききたい！・お家に聴診器があるよ
- ・メッシュ君は人形が好きだったよ。育てたいな。
- ・鳴き声によって気持ちが違うみたい。
- ・はじめて触る子ががしっと首をつかんでいてモルモットがびくびくしていたから、触り方も教えたいな。
- ・なぎざちゃんが隠れるお家がすぐに壊れちゃうんだよ。みんなで作るのはいかがでしょうか？

・えさがもうなくなってしまうよ。わくフェスで1年分のえさやシーツのおかねを稼ぎたいな。

・5万円もかかるよ。もっと石鹸づくりが上手になるか売れるものを増やさないね。

・でもこれ以上、売れるものもないし、作れないよ。

・私たちだけではわくフェスで石鹸をうっても、お金が足りないかもしれない。個学のみんなに協力してもらおうのはいかがでしょうか？

リンクラインへ校外学習に行こう
(のぞみ4組)

- ・すごい集中して作っているね。
- ・それぞれ作業を分担して作っているんだね。
- ・型からはみ出たところは削ってきれいにしているね。
- ・パーツごとに方があるんだね。私たちも型を用意すればもっときれいな石鹸ができるかな。
- ・とてもいい香りがするけれど、何の香りかな？
- ・作業所では、障害のある方が得意なことをいかして働いているんだね！
- ・はやく学校で石鹸を作りたいな。
- ・モルモットのためにもっとよい石鹸をたくさん作ってわくフェスで販売しよう。

ものづくりをしよう！



やり方を担任が見せて、見通しをもって作ることができるようにする。成功体験を積み重ね、自信をつけられるようにする。

アイロンビーズ	エコたわし	紙コップボンボン	石鹸づくり	増える植物
・アイロンビーズでいろんな模様ができるようになったよ！ ・最初は四角い形だけだったけど、丸や三角の形もできるようになったよ。	・指をつかって編んで、エコたわしを作ることができたよ！ ・いろんな色があってとてもかわいいね！	・上手に作れたよ！ ・遠くに飛ばしたよ！うれしいな。 ・もっと遠くに飛ばしたいな。	・きれいな石鹸をたくさん作ることができたよ。 ・自分で使えるのがうれしいな。お家の人にプレゼントしたいな。 ・もっと作りたい！	・植物を分けて植えるとうきょう増えるね！大きくなっていくのが楽しみな。 ・鉢に植えたならもっと素敵になるね！

第一段階 教師と一緒に興味のあるものづくりを楽しむことができる。

第二段階 自分から進んで様々なものづくりを楽しむことができる。

第三段階 自分から友だちに声をかけ、様々なものづくりに挑戦し、楽しむことができる。

個学のみんなに協力のお願いにしよう

個学のみんなにわくフェスで石鹸を売れることを伝えにしよう

- ・のぞみ4組では、わくフェスで石鹸やバスガムを販売し、モルモットのえさやシーツを買おうと思っているんだ。
- ・最低でも5万円必要で、達成するためには商品の数を増やす必要があるんだよ。協力してほしい！

・モルモットの餌がたりなくて困っているんだって。助けてあげたいな。

・自分たちにはできることはないかな。

・一緒に販売できるものはないかな？

・エコたわしをつくったよ。アイロンビーズもいいね！

・植物を瓶に詰めて販売できそうだね。・紙コップボンボンもいいね！

・わたしたちものぞみ4組さんと一緒に販売したいな。

わくフェスで個学のお店をひらこう

お店に向けて商品を作ろう

- ・お客さんに販売するということを全体で確認してから商品づくりに入ることで、相手意識をもって商品作りに取り組めるようにする。
- ・看板や飾りなど、お客さんが興味を持つ工夫ができるように声をかける。

- ・売り物になるから、お客さんに喜んでもらうために、丁寧に作らなきゃいけないね。
- ・たくさんの方が買ってくれるようにするためにはもっときれいでよいものを作らないといけないね。
- ・ごみなどが入らないように慎重に作ろう
- ・たくさんつくって、たくさん売れるといいな。
- ・たくさん売れるように看板を作ろうよ。かざりも作りたいな。
- ・でも、どのように売ればよいのかな？

どのように売ればよいのかな？①

- ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」をいったほうがお客さんもうれしいね！
- ・何個買うかわからないときは、お客さんに質問してもいいね
- ・買いたい人はしっかり列に並ばないとお店の人が困ってしまうね。
- ・もっと売る練習をして、お金の計算ができるようになりたいな。
- ・お客さんがたくさん来てくれるように呼び込みをしたいな。

どのように売ればよいのかな？②(本時)

- ・買う人は、売る人と同じように「これください」「ありがとうございます」ということが大切だね。やってみたいな。
- ・売る人が何円払えばいいか教えてくれると買う人はとてもうれしいな。自分が売るときに伝えるようにしよう。
- ・150円だから、100円玉を一つと、50円玉を一つ払えばいいね
- ・看板や呼び込みをしたら前回やったときよりもたくさんお客さんが来てくれたよ。
- ・28日の本番も頑張ってたくさん売りたいな。

わくわくフェスタで販売しよう！

第一段階
教師と一緒に商品づくりに参加しようとしている。

第二段階
友だちと一緒に商品づくりを楽しもうとしている。

第三段階
お客さんに喜んでもらうために、自分から友だちと話し合って商品づくりを楽しもうとしている。

第一段階
店で売る活動を通して、教師と一緒にお客さんとのコミュニケーションをとろうとしている。

第二段階
店で売る活動を通して、お客さんとのコミュニケーションのとり方を考えようとしている。

第三段階
店で売る活動を通して、お客さんとのコミュニケーションのとり方を友だちと考え、自分の売り方に活かそうとしている。

6 本時について

7. 本時の学習
- (1) 本時の目標
- 販売活動を通して、お客さんと適切にかかわることができる。
- (2) 個別の目標 (別紙参照)
- (3) 本時の展開

学習活動		主な支援・留意点・【評価】									
バイバイモールを成功させよう 商品のストック 商品 買い物かご・お財布 お計 お金 ・笑顔で対応する。 ・〇〇が〇個ですね、〇円になります。 ・お釣りです。 ・お買い上げありがとうございました。 ・かっこいい店員さんになる。 ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」をいう。 ・笑顔であいさつをする。		・前時までの学習をふりかえり、本時の活動を確認する。 ・めあてと学習の流れを提示し、見通しを持たせる。 ・お客さんと接する際のポイントについて、言葉カード提示しておく。 ・店員とお客のやり取りが困難な時は、支援する。 ・レジ用の計算用紙を、用意しておく。 ・計算が困難な時は支援する。 ・子どもの発言したことやつぶやきから、子どもの感じていることや気持ちを汲み取り、振り返りにつなげる。 【評価】別紙参照									
	<table><tr><th></th><th>レジ係</th><th>店員</th></tr><tr><td>Aグループ</td><td></td><td></td></tr><tr><td>Bグループ</td><td></td><td></td></tr></table>		レジ係	店員	Aグループ			Bグループ			
	レジ係	店員									
Aグループ											
Bグループ											

7 実践を終えて

<成果>

- ・単元構想全体を通して、意欲的な学びになっていた。様々な教科の学びに結びついていく内容だった。
- ・お店で相手と関わるための挨拶の練習などは、教師が手本を見せたり、言葉を書いて視覚的に分かるように工夫したりしたことで児童にとって分かりやすく、練習がしやすかった。
- ・売る側、買う側、両方の立場を経験することで、相手意識がもてた。
- ・上手な子が手本になって下学年が真似をすることができ、児童同士のひびき合いの姿が見られた。
- ・フェスティバルの本番に向けて、接客の仕方を繰り返し練習したことで、徐々に良い方向に改善していき、達成感も得られた。

<課題>

- ・児童の人数に対して、活動する場所（机）が狭く、もう少し広くするなど、活動しやすい環境づくりが必要であった。また、お客さん役の児童の人数を減らすことで、活動しやすくなる。
- ・1時間の中で、T1の担当がずっと同じ教師だったため、他の教師と分担するなど、複数いる教師の役割分担をより明確にすると良かった。

<個学としてのひびき合いの姿について>

- ・児童の中には大人数の場面が苦手な子もいるため、あの場で意見が言えなかった子に対しては、教室に戻ってから意見を聞き、その後教師が他の児童に伝えるなどの工夫ができる。
- ・言葉で共感の意思を表現できない児童は、拍手などでもひびき合うことができる。